

卑劣という感覚が麻痺したとき——人間やめるがよろし

Greatchain

2018/03/14

前にも一度この話を取り上げた。クマの牧場というものがあるらしい。何頭かのクマを牧場に放し飼いにしておくと、必ず強いボスが現れ、このボスに、ほどほどに強い子分が何頭が付き従い、あとの弱小のクマたちは、この者たちに徹底的にいじめられ犠牲となって、社会秩序が保たれるらしい。

これはもちろん、New World Order の構造そのものではないか、として紹介した話だが、そのころはまだ、彼らの腐敗が今ほど明らかでなく、“文化”としてのペドフィリアや、子供売買のネットワークの存在も知らなかった。イラクやシリアやイエメンの子供犠牲の実態も、アメリカやNATO の、テロリストとしての、あるいはテロリストたちとの協同の実態も、今ほどは明らかでなかった。

このクマ牧場の話では、クマが3種に分かれている。一つは悪の根源であるボス(ボス族)、もう一つは、完全に弱者で被害者である大多数のクマ、それに加害者でも被害者でもない(両方でもある)中間層である。「悪そのもの」を体現するボスたちは、神に反抗する者たちであり、中村雄二郎氏が『悪の哲学ノート』で言ったように、ある種の「悪の魅力」さえもっている。無力な被害者たちは、彼らから見れば、完全な搾取の、または処分の対象としての、奴隷である。問題は中間層である。この者たちが、最も卑劣な、最も軽蔑に値する者として、社会を墮落させている。彼らは悪を助け、弱きをくじく者たちである。

「シリアの子供たち：我々が決して忘れることのないように」という論文の、読者コメント欄に書かれている文章を、先日紹介した——「こうした残虐行為が起こるためには、多くの人々が一致協力して、それが起こるようにしなければならない。人間は不道徳、利己心、傲慢、かつサディスティックな動物である。」多くの人々が一致協力して、残虐行為を止めにはいるべきところを、一致協力してクマのボスに加勢する。これほど反吐を催す行為はない。ある女性記者がシリアの実情——平和努力を装うプロパガンダの裏の残虐——を知って、「**デスピカブル**」(卑劣、ピにアクセント)を連発していた。これはすべて、こういうことが起こるように、ボス熊の犯罪行為の幫助(幫間=男芸者の幫)がなければ、起こりえないことである。この恥ずべき“男芸者”を買って出るのが主流メディアであり、従僕国政府で

ある。だからこそ P・C・ロバーツは、主流メディアを一貫して presstitute (press+prostitute、娼婦新聞) と呼んでいる。私は、ある大新聞が、プーチンの行動を批判して、「大国であることを笠に着て…」と言ったときの、嘔吐感を忘れることができない。

「悪なる強者を助け、弱者をくじく」ということが、どれだけ恥ずべきことであり、どれだけ国民を犯罪者にするかわからない。悪の中心にいる者は、悪そのものが彼らの目的なのだから、巧妙に人々を騙すのは当然である。しかしその尻馬に乗り、彼らにへつらうということは、良心と自尊心をもつ者には耐えられないことである。もし彼らが、これは国民の利益のためだ言い張るなら、それは国民を欺いて滅ぼす行為である。刀で切り殺す方がよほどましであろう。今の世の中でいちばん始末の悪いのは、この善人面をした新聞であろう。彼らは真実を調べるプロなのだから、真実を知らないはずはない。だから SOTN などは、西側世界を改革するには、まず CIA と新聞を潰せと言っている。

確かに、行動の選択が難しい場合もある。そういうときは工夫すればよい。安倍首相が何年か前、おそらく悩んだ末に、ウクライナのポロシェンコ大統領に会いに行ったとき、これを名誉なことのようにトップなどに書かず、小さく、ついでのように扱い、「韓信の股くぐり」の話をさりげなく添えておけば、どれだけ日本の株が上がったかしのれない。

先日、小さな会合でこの種の話をしたとき、聴衆の多くが、アメリカとロシアの立場を、宣伝通りに全く逆に考えているのを知って驚いた。プーチンが、その冷静な判断力によって、世界を大戦争から食い止めている証拠はいくらでもあるが、彼の偉いところは、戦争よりも、人間の精神の危機を、歴史的に真剣に考えていることである。記事の一つ、「プーチン：西側はサタンのペドファイルによって支配されている——ロシア大統領がペドフィリアの蔓延を公然と叩く」を見てもわかるように、彼は“西側はペドとサタンで勝手に滅びるがいい”とは、決して言わない。そういう風な言い方をしたことは、彼の語録に一度もない。常に、世界的・歴史的な、人間と神の問題として考えている。一か所だけ引用すれば：——

「我々は、ユーロ大西洋諸国の多くが、西洋文明の基礎をなすキリスト教の諸価値を含め、実は、自らの根幹を拒否している実態を、目撃しています。彼らは道徳的原理と、伝統的な自らのアイデンティティのすべてを、否定しています——国民的、文化的、宗教的、さらには性的なアイデンティティまで…。彼らは、大家族を同性性関係と、また **神への信仰をサタン信仰**と、同一視する政策を実行しています。

こうしたプーチンの演説について、これを引用している論者が、感に耐えたように言っているのが印象的である——

彼のほかに、何人の世界の指導者が、陰険なやり方で、ますます広範囲に常識化され、推し進められていくペドフィリアについて、これほどに包み隠さずに話したるうか？ アメリカ大統領の誰が…？

我々の日本人の間かされているのは、米国製の「悪魔化された」プーチン像であり、ペドフィリアの蔓延などとフェイク・ニュースを宣伝する愚か者プーチンである。なんという表裏、なんという卑劣なウソであろうか！